

ICANN86 ccNSO関連報告

第76回ICANN報告会
2026年7月31日

株式会社日本レジストリサービス (JPRS)
高松 百合 takamatsu@jprs.co.jp

基本情報

- ccNSO（国コードドメイン名支持組織）
 - 正式名称：
Country Code Names Supporting Organisation
 - ICANNにおける位置づけ
 - ICANNの活動を支える支持組織の一つ。
 - 約250のccTLDの内、約180のccTLDが参加。
 - ccTLDレジストリの連合体としてICANNの他支持組織や諮問委員会などと協調しながら、ccTLD全体にまたがるグローバルな課題についてポリシー案を作成し、ICANN理事会に勧告を行う。

JPRSは、日本を表す「.JP」を運用するccTLDレジストリとしてccNSOに参加。

※JPRSからは遠藤淳、高松百合が参加

ccNSOに関連する主な会合

6月8日(月)	▪ Tech day ▪ DNSSEC Workshop ▪ Guideline Review Committee Work Session with Meeting Program Committee
6月9日(火)	▪ Welcome Session ▪ ccTLD News Session (Part1) ▪ <u>Resilience Session: Regulatory Trends on DNS resilience affecting ccTLDs</u>
6月10日(水)	▪ <u>ccNSO Study Groups: Updates and Consultations</u> ▪ Joint session: ccNSO & RySG ▪ ccTLD News (Part2) ▪ <u>ccTLDs and Registrars Tackling DNS Abuse</u>
6月11日(木)	▪ IANA Disaster Recovery Study Group ▪ IANA Public Records Study Group ▪ ccNSO Council

①ccNSOに設置された Study Groupでの 取り組み

背景

- IANAがその業務を適切に遂行する際に依拠すべきポリシー/ルールが不在であることの状況分析を行うために2024年から2025年に活動したPolicy Gap Analysis Working Groupが以下2つのStudy Groupの設置をccNSO評議委員会に提案し、採択された

(1) IANA Public Records Study Group (IPR SG)

Root Zone Database (<https://www.iana.org/domains/root/db>)で確認可能な、IANA Public Record (IANA公開情報)に関し、「(A) 情報公開の目的」「(B) 公開される情報の正確性」「(C) IANAはccTLDに対し、正確な情報の提供を強制できるか」の3点の調査を深掘りする。

(2) IANA's role in ccTLD Disaster Recovery Study Group (DR SG)

自然災害等が発生した際、ccTLDに対してIANAが何かできるのか、できるとすれば何ができるかを探る。

ICANN86での動き: IPR SG

• ICANN86での動き

- 2026年10月までに報告書を取りまとめるべく、調査対象の3点に関し、セッション参加者に問いかけ回答を収集
- それぞれの結果は以下

(A) 情報公開の目的

質問	IANA の公開記録にある情報は、何のために使用しているか？
主な回答	TLDに関する各種情報の確認

(B) 公開される情報の正確性

質問	IANA の公開記録がどの程度正確かについて、何か見解はあるか？
主な回答	・ gTLDはICANNと契約関係にあり正確だが、ccTLDはそうとは限らない ・ ccTLDは政府機関の関与がある場合、手続きが単純でないケースもある

(C) IANAはccTLDに対し、正確な情報の提供を強制できるか

質問	IANA やその他の関係者が対応を行うことで不正確な点が修正された事例を知っているか？ その場合、どのような対応が行われたか？
主な回答	.lb（レバノン）のccTLDマネージャが不在に陥った際の暫定対応

ICANN86での動き: DR SG

- ICANN86での動き

- 「IANAは”何をすべきか”ではなく、IANAは”何ができるか”を探る」ためのシナリオスタディを実施し、その結果と考察を共有

- 実施結果(一部抜粋)

ccTLDマネージャーの組織形態	事象	状況
大規模民間組織	戦争	施設破損
島嶼国の政府	サイクロン	壊滅的崩壊
学術機関	ハリケーン	職員喪失
NGO	政変	権限を巡る紛争

- 考察

- Disasterが起きる前に、IANAとccTLDの役割分担の明確化及び準備が重要
- 最も難しいのは、技術的な対応・調整ではなく「誰に権限があるか」
- 組織や登録件数の規模だけではリスクの大きさを判断できない

②レジリエンスをテーマとした 情報共有

概要

- ccNSOに設置された以下3グループが合同で企画
 - Internet Governance Liaison Committee
 - TLD-OPS
 - IANA's role in ccTLD Disaster Recovery Study Group
- 主な内容
 - 重要インフラを標的としたサイバー脅威の増加に伴い、ccTLDマネージャーに求められる対応が、各国地域で拡大傾向にあることが共有された（BCP、リスクマネジメント、インシデントの迅速な報告等）
 - ccTLDでの実務的な対応として、ただ「安定運用できている」だけでなく「安定して運用できていることを説明・証明できるか」が求められる傾向にあることが共有された

③DNS Abuseへの対応に関する連携を テーマとした情報共有・意見交換

概要

- Domain Name Abuse Standing Committee (DASC) が企画
 - セッションチェア : DASC ChairのNick Wenban-Smith(.uk)
 - モデレーター : DASC副ChairのBruce Tonkin(.au)
- 主なアジェンダ
 - 以下各パネリストがDNS Abuseに関連した連携に対する見解を述べ、パネルディスカッションを実施

ccTLDマネージャー	レジストラ
.se(スウェーデン)、.no(ノルウェー)	Tucows、Namespace

- GNSOでのDNS Abuse Mitigation Policyに関する情報共有
- ccNSO内で実施予定のDNS Abuseに関するサーベイへの参加呼びかけ

パネルディスカッションでの主な発言

- ccTLDごとに前提条件が異なる
 - 国内法、登録規則、本人確認時に利用可能なデータベースなどがccTLDごとに異なり、一律の対応モデルを適用することは難しい
- レジストリとレジストラでの役割整理が必要
 - ドメイン名は、レジストラを通じた登録が主流であり、レジストリから登録者への突然の連絡は、セキュリティリスクや混乱を生む可能性がある
- 登録者情報の確認も重要だが、不正登録・不正利用を検知した後の迅速な対応も重要

